

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-22	中学校	社会科	地理的分野	第1・2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地理-703	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土		

## ① 編修の基本方針

### ▶ 教育基本法第2条に関する総合的な基本方針

#### ～持続可能な発展を目指して考えを深められる教科書～

- 人々の営みを映し出す画像資料により、学びに向かう意欲を涵養
- 技能習得コーナーの充実により、情報活用能力を育成
- 地域に見られる課題の解決に向けて構想させる活動を豊富に設け、主体的に社会の形成に参画する態度を涵養
- 環境・防災・共生を主題とする題材を積極的に扱い、“持続可能な開発目標(SDGs)”の意義への理解を涵養
- 地誌単元の内容を充実させ、国土理解・異文化理解を促進

以下、教科書のもくじに加えて、  
巻頭5-6「この教科書の学習のしかた」と合わせてご覧いただくと、  
該当する具体的な工夫箇所が、円滑にご確認いただけます。

### ▶ 教育基本法第2条第1号に関する基本方針

#### ① 人々の営みを映し出す画像資料により、学びに向かう意欲を涵養

- 地域の表情が見える、人々の営みを映し出す写真資料(p.32-33, 210, 229, 268など)を、全編にわたり掲載しています。
- 第2部第2章(世界の諸地域)と第3部第3章(日本の諸地域)の各節の冒頭には、紙面全体にわたり写真から地域を概観する「写真で眺める〇〇州(地方)」を設けています。さらに、第3部第3章の各節の冒頭には、親しみやすいイラスト地図から地域を概観する「とびら」も設けています。
- 上記のいずれも、学びに向かう意欲の喚起と、学習内容に直結する資料性との双方を備えるべく、吟味して選定しています。また、適切な写真資料を提示するために、自社で現地に向向いて取材を行い、より学習効果の高い被写体やアングルを追求しています。
- おもに各章・節タイトル脇に設置した二次元コードから、動画でも地域の姿を概観できるようにしています。

## ②見通し・振り返り活動の充実により、主体的な学びを促進

- 巻頭5には「この教科書の学習のしかた」を設け、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れを示したほか、各特設やコラムの学習上の位置づけを丁寧に紹介することで、自主的・自発的な学習活動がしやすくなるよう配慮しています。
- 巻頭にはまた「地理的分野の学習の全体像を見通そう」を設け、日々の学習が、教科全体および分野全体の学習目標に照らして、どのように位置づけられるのか、生徒自身も見通しを持てるよう配慮しています。
- 章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に、単元を貫く問いを設けています（「章の問い」「節の問い」「学習課題」）。これらにより、生徒自身が日々の学習内容に見通しを持てるようにしています。
- それらの問いの受け皿としての課題も、章・節・各本文ページの末尾に設けています（「章（節）の学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」）。これらにより、生徒自身が学習の振り返り活動も行えるようにしています。

## ③新たな気づきを実感できる言語活動の充実により、学びを追究する態度や資質を育成

- 巻頭7には「地理的な見方・考え方について」を設けています。学習指導要領が定めた、地理的分野の全体を通して鍛えていく「見方・考え方」について、分かりやすく説明しています。
- 章・節の末尾の「章（節）の学習を振り返ろう」では、上述の「見方・考え方」を働かせた、「章（節）の問い」の答えに対する論理的な説明や、地域の特色に対する多面的・多角的な考察に取り組みます。これらの活動を通じて、新たな気づきを実感していけるため、地理的分野の学習の面白さを感じ取り、学びを追究する態度と資質を養えます。

## ▶教育基本法第2条第2号に関する基本方針

### ①技能習得コーナーの充実により、情報活用能力を育成

- 「技能をみがく」コーナーを、23ヶ所設けています。地図帳・写真・雨温図・地形図・統計・グラフの読み取り方や、地域の調査・分析の手法など、地理学習の基礎的な技能を広く学べます。加えて、近年重要視されているハザードマップなど、高等学校の「地理総合」に関わる技能にも配慮しています。
- なお、「技能をみがく」については、その多くで、二次元コードを通じた解説動画を用意し（p.11など）、すべての生徒にとっての理解しやすさを向上させています。
- 本文ページ中の各種写真・統計類においては、「資料活用」の問いを設けており、習得した技能を、生徒自身が活用できるようにしています。

### ②実社会で働く人の声に触れることで、勤労を重んじる態度を涵養

- 実社会の人々の具体的な話を紹介するコラム「声」を、p.116, 249など18ヶ所で設けています。働く人の生の声に触れることを通じて、勤労を重んじる態度を養います。

## ▶教育基本法第2条第3号に関する基本方針

### ①よりよい社会に向けた人々の営みに触れることで、公共の精神を涵養

- コラム「未来に向けて」をp.89, 91, 97など25ヶ所、特設ページ「地域の在り方を考える」をp.202, 234, 284など7ヶ所で設けています。実社会の人々が連携・協働して地域に見られる課題の解決に取り組む姿から、社会的な正義感・責任感や、自他の敬愛と協力を重んじる、公共の精神を養えます。

### ②地域に見られる課題の解決に向けて構想させる活動から、主体的に社会の形成に参画する態度を涵養

- 第2部第2章（世界の諸地域）および第3部第3章（日本の諸地域）のなかの、各節末尾の「節の学習を振り返ろう」では、右側のページの「ステップ3」で、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動が行えます。その下段には、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識させるコーナーも設けています。

- **第4部第1章（地域の在り方）**では、生徒自身が住む地域における、地域に見られる課題の分析と、その解決に向けた構想に、本格的に取り組めます。
- これらの活動の関係は、巻頭の「**地理的分野の学習の全体像を見通そう**」に加えて、**第2部第2章・第3部第3章・第4部の各冒頭**でそれぞれ「**序説**」を設けて、概観できるようになっています。そのため、日々の学習のなかで、地理的分野の学習の目標が社会参画にあることを、意識付けることができます。

## ▶教育基本法第2条第4号に関する基本方針

### ①環境・防災・共生を主題とする題材を積極的に扱い、“持続可能な開発目標（SDGs）”の意義への理解を涵養

- 先述のコラム「**未来に向けて**」では、環境（p.91など7ヶ所）・防災（p.97など9ヶ所）・共生（p.89など9ヶ所）を主題としており、巻頭1～2の「**地域のよりよい発展を目指して**」と併せて、国際連合が掲げ日本政府も強く推進している“**持続可能な開発目標（SDGs）**”に関わる題材を積極的に扱っています。
- 最終単元である**第4部第1章（地域の在り方）**でも、“**持続可能な社会**”を目指す意義を、生徒に語りかけています。その際、先述の特設ページ「**地域の在り方を考える**」が“**持続可能な社会**”を実現する例として提示してあるため、より具体的に地域の在り方を構想することが期待できます。

## ▶教育基本法第2条第5号に関する基本方針

### ①地誌単元の内容を充実させ、国土理解・異文化理解を促進

- 地誌を扱う**第2部第2章（世界の諸地域）**および**第3部第3章（日本の諸地域）**の内容を充実させています。世界の各州（6州）・日本の各地方（7地方区分）ともに、自然環境、生活・文化、産業をバランス良く扱うことで、正しい国土理解と偏見に陥らない異文化理解が行えるようにしています。もちろん、学習指導要領が求める主題を中心とした展開や、地域の社会的な課題をからめた展開とも、十分に両立できるよう、内容構成の吟味を重ねました。
- なお、上記の両章の構成・展開については、両章冒頭に「**序説**」を設けて概観し、生徒が学習の見通しを持てるようにしています。

### ②国際法に則った日本の立場を丁寧に解説し、国際社会を尊重する姿勢を涵養

- p.18-21では、日本の領域の範囲とその特色について扱っていますが、その際、日本の立場が国際法に則っていることを丁寧に解説しています。

## ② 対照表

図書の構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
地域のよりよい発展を目指して	・国際連合が掲げ日本政府も強く推進している、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて努力する人々の姿を紹介することで、環境の保全や社会の発展に寄与する態度を養いやすくなっています。 第3号 第4号	巻頭1～2
地理的な見方・考え方について	・地理的分野の全体を通して鍛えていく「見方・考え方」について、分かりやすく概観しているため、学びを追求する態度を養いやすくなっています。第1号	巻頭7
第1部第1章 世界の姿	・緯度・経度など地理学習の基礎を、わかりやすく図版を用いて解説し、知識や教養を身に付ける意欲が損なわれないよう配慮しています。第1号	p.2～13
	・地図帳や地球儀に関わる技能を、作業指示等を工夫して丁寧に解説し、情報活用能力の土台を育成しやすくしています。第2号	技能をみがく1～5
第1部第2章 日本の姿	・中学生がつまづきやすい時差などは、図版も工夫してわかりやすく解説し、知識や教養を身に付ける意欲が損なわれないよう配慮しています。第1号	p.14～17, 22～25
	・時差の調べ方に関する技能は、作業指示等を工夫して丁寧に解説し、生活における基礎的な力を育成しやすくしています。第2号	技能をみがく6

	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の領域の範囲とその特色について、本文と図版で丁寧に解説しています。その際、日本の立場が国際法に則っていることを理解することで、国際社会を尊重する姿勢を養えるよう配慮しています。<b>第5号</b></li> </ul>	p.18~21 技能をみがく7
第2部第1章 人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>親しみやすい衣・食・住を題材に、世界のさまざまな地域にどのような暮らしぶりがあるのかを楽しく紹介することで、知識や教養を広げる意欲や、他国の人々をも尊重する態度を養いやすくしています。<b>第1号 第5号</b></li> </ul>	p.26~44
	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の宗教は、偏見を与えない記述となるよう配慮し、他国の人々をも尊重する態度を養いやすくしています。<b>第5号</b></li> </ul>	p.42~43
第2部第2章 世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>本書全体にわたり、地域の表情が見える、人々の営みを映し出す写真資料の掲載に配慮しています。また、「技能をみがく」では、写真資料の読み取り方を丁寧に解説しています。ほか、各種の資料図の読み取り方を習得する「技能をみがく」も設けており、情報活用能力を育成しやすくなっています。<b>第2号</b></li> </ul>	技能をみがく 8~11
	<ul style="list-style-type: none"> <li>州（節）ごとに【導入（写真）→自然環境→歴史・文化→産業および課題→学習の振り返り】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、偏見に陥らない異文化理解が行えるようにしています。なお、こうした構成それ自体について、章の冒頭に序説を設けて、生徒自身が見通しを持てるようにしています。<b>第1号 第5号</b></li> </ul>	p.47, 48~129
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各州（各節）の冒頭には、【導入】として「写真で眺める〇〇州」を設けることで、興味・関心を喚起するとともに、学習内容への見通しを持ちやすくなるよう配慮しています。<b>第1号</b></li> </ul>	p.48~49, 66~67, 82~83, 94~95, 108~109, 120~121
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活をより豊かにするために工夫し努力する人の姿を、「声」コーナーや写真などで紹介することで、勤労を重んじる態度を養いやすくしています。<b>第2号</b></li> </ul>	p.62, 72, 78, 88, 100, 116, 127
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実社会の人々が連携・協働して社会的な課題の解決に取り組む姿を、「未来に向けて」コラムや写真などで紹介することで、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会を目指す態度や、社会的な正義感・責任感を養いやすくしています。<b>第3号 第4号</b></li> </ul>	p.69, 87, 89, 91, 97, 99, 113, 123, 125
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各節末尾の「節の学習を振り返ろう」では、右側のページの「ステップ3」で、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動が行えます。その下段には、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識できるコーナーも設けています。<b>第3号</b></li> </ul>	p.64~65, 80~81, 92~93, 106~107, 118~119, 128~129
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地理的な見方・考え方」を働かせて、自分自身が住む町の調査に活かす内容に構成しています。これにより、学びの意義を実感できるため、知識や真理を求める態度を養いやすくなっています。<b>第1号</b></li> </ul>	p.130~141
第3部第1章 身近な地域の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査の手法、調査結果の分析に加え、地形図の使い方にも触れることで、情報活用能力を高められます。<b>第2号</b></li> </ul>	技能をみがく 12~18
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本全体としての地域的特色を、的確に表現できる資料の掲載に配慮することで、正しい国土理解と、日本の自然の恵みへの感謝の念や、そのような日本の国土への愛着を、養いやすくしています。<b>第1号 第2号 第4号 第5号</b></li> </ul>	p.142~169 技能をみがく 21
第3部第2章 日本の地域的特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハザードマップの読み取り方など、防災に関わる技能を習得できる作業を手厚く設けることで、自分自身や周囲の人々の生命を守るための情報活用能力を育成しやすくしています。<b>第2号 第4号</b></li> </ul>	技能をみがく 19~20
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方（節）ごとに【導入（イラスト地図・写真）→自然環境→注目する視点→生活・産業など→学習の振り返り】という構成にすることで、知識や教養をバランス良く身に付けられるとともに、高等学校では基本的に扱われない日本の国土について、正しい理解が十分に行えるようにしています。なお、こうした構成それ自体について、章の冒頭に序説を設けて、生徒自身が見通しを持てるようにしています。<b>第1号 第5号</b></li> </ul>	p.170, 171~283
第3部第3章 日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地方（各節）の冒頭には、【導入】として、親しみやすいイラスト地図から概観する「とびら」や、地域の表情が見える写真から概観する「写真で眺める〇〇地方」を設けることで、興味・関心を喚起するとともに、学習内容への見通しを持ちやすくなるよう配慮しています。<b>第1号</b></li> </ul>	p.171~173, 187~189, 203~205, 219~221, 235~237, 253~255, 269~271
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活をより豊かにするために工夫し努力する人の姿や、文化の継承と創造に工夫し努力する人の姿を、「声」コーナーや写真などで紹介することで、勤労を重んじる態度や、伝統や文化を尊重する態度を、養いやすくしています。<b>第2号 第5号</b></li> </ul>	p.198, 215, 224, 249, 262, 274

	<p>・実社会の人々が連携・協働して、地域のよりよい発展を目指して取り組む姿を紹介した特設ページ「地域の在り方を考える」や、環境・防災・共生の面での課題の解決に取り組む姿を紹介したコラム「未来に向けて」などにより、環境を保全し生命を尊び持続可能な社会を目指す態度や、社会の発展に寄与する態度を養いやすくしています。<b>第3号 第4号</b></p>	p.175, 181, 186, 191, 193, 202, 207, 209, 213, 218, 223, 225, 234, 239, 247, 252, 257, 268, 273, 279, 284
	<p>・各節末尾の「節の学習を振り返ろう」では、右側のページの「ステップ3」で、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動が行えます。その下段には、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識できるコーナーも設けています。<b>第3号</b></p>	p.184~185, 200~201, 216~217, 232~233, 250~251, 266~267, 282~283
第4部第1章 地域の在り方	<p>・序説を設けて、第2部の世界の学習と、第3部の日本の学習とが、第4部の地域の在り方の学習と相互に関係していることを示しています。地域のよりよい発展を目指して考えていくために、地理的分野の学習が生かせることを示すことで、社会の発展に主体的に寄与する態度を養いやすくなっています。<b>第3号</b></p>	p.285
	<p>・生徒自身が住む地域における、社会的な課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組む活動を設けており、主体的に社会の形成に参画する態度を養いやすくなっています。<b>第3号</b></p>	p.286~293 技能をみがく 22~23
	<p>・調査結果の分析に加え、“プレゼン”のやり方にも触れることで、勤労への意欲にもつながる情報活用能力を高められます。<b>第2号</b></p>	p.294~295

## ③ 上記の記載事項以外に意を用いた点や特色

### ①すべての生徒に読みやすい表現の工夫

- ・特別支援教育の専門家からの助言を参考に、すべての生徒が読み取りやすい表現となるよう配慮しています。
- ・文字は、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用しました。
- ・見開きにおけるデザインや、グラフ・地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮しました。また、折れ線グラフなどは、線種を変えたりするなどの工夫を行い、色以外の情報からも読み取れるようにしました。
- ・学習者用デジタル教科書を発行し、特別支援教育に活用できる機能を付加します。

### ②二次元コードの利用で、生徒の理解や自学自習を支援

- ・二次元コードの利用で、教科書に掲載している資料の一部を、タブレットパソコンなどで閲覧できます。例えば、「地球儀での距離と方位の調べ方」（p.11）など、「技能をみがく」コーナーを中心に動画を収録し、すべての生徒にとっての理解しやすさを向上させています。
- ・各章・節の二次元コードでは、学習内容に関連する動画を、章末特設「学習を振り返ろう」では、知識を確認する問題の解答を閲覧でき、自学自習を支援します。

### ③教科書に使う用紙の軽量化

- ・持ち運びの負担軽減のため、製紙会社と研究を重ね、用紙の1㎡あたりの重量は現行比で約5%軽量化しました。

### ④環境に優しい素材と堅牢な造本

- ・紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用しています。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏映りが少ないものを使用しています。
- ・インクには、国産米の米ぬかからつくられるライスインキを使用しています。
- ・堅牢な造本方式を採用し、使用期間の間、壊れることがないようにしています。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-22	中学校	社会科	地理的分野	第1・2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地理-703	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土		

## ① 編修上特に意を用いた点や特色

### ▶ 学習指導要領に関する総合的な基本方針

#### ～持続可能な発展を目指して考えを深められる教科書～

- 興味・関心を引き出す画像資料, 見通し・振り返り活動, 技能習得コーナーの充実により, 「主体的な学び」を実現
- 実社会の人々の声や取り組みを豊富に掲載し, 「対話的な学び」を実現
- 地理的な「見方・考え方」に基づく, 考察・調査・構想活動の充実により, 「深い学び」を実現
- 地誌単元の内容を充実させ, 国土理解・異文化理解を促進
- 環境・防災・共生を主題とする題材を積極的に扱い, “持続可能な開発目標(SDGs)”の意義への理解を涵養

以下, 教科書のもくじに加えて,  
巻頭 5-6 「この教科書の学習のしかた」と合わせてご覧いただくと,  
該当する具体的な工夫箇所が, 円滑にご確認いただけます。

### ▶ 総則一第1 「中学校教育の基本と教育課程の役割」に関わる特色

#### ◎ 「主体的・対話的で深い学びの実現」の全編にわたる重視

- (総則一第3についての箇所にて具体的に述べます)

### ▶ 総則一第2 「教育課程の編成」に関わる特色

#### ① 小学校での既習事項からの橋渡しに配慮した記述・記載

- 最初に学ぶ第1部の本文や作業指示は, できるだけわかりやすい表現となるよう配慮しています。
- 各本文ページの下端には, 関連する小学校の既習事項を示しました。

#### ② 高等学校新科目「地理総合」にも通底する「見方・考え方」や「防災」の充実

- 各本文ページの「説明しよう」や「資料活用」, 特設「章(節)の学習を振り返ろう」など, 地理的分野で鍛

えていく「見方・考え方」の活用機会を重視して設けているほか、防災に関わる内容や技能も重視して設けています（詳細は総則－第3にて後述）。この「見方・考え方」や「防災」は、高等学校で新たに設置される科目「地理総合」にも通底するものであり、円滑な接続が期待できます。

## ▶ 総則－第3「教育課程の実施と学習評価」に関わる特色

### A) 「主体的な学び」を実現するための工夫

#### ① 学習の全体像や選択機会の明示

- 巻頭5には「この教科書の学習のしかた」を設け、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れを示したほか、各特設やコラムの学習上の位置づけを丁寧に紹介することで、自主的・自発的な学習活動がしやすくなるよう配慮しています。
- 巻頭ではまた「地理的分野の学習の全体像を見通そう」を設け、日々の学習が、教科全体および分野全体の学習目標に照らしてどのように位置づけられるのか、生徒自身も見通しを持ちやすくなるよう配慮しています。

#### ② 興味・関心を引き出し、かつ、学習効果の高い画像資料

- 地域の表情が見える、人々の営みを映し出す写真資料（p.32-33, 210, 229, 268 など）の掲載に、全編にわたり配慮しています。
- 第2部第2章（世界の諸地域）と第3部第3章（日本の諸地域）の各節の冒頭には、紙面全体にわたり写真から地域を概観する「写真で眺める〇〇州（地方）」を設けています。
- 上記のいずれも、学びに向かう意欲の喚起と、学習内容に直結する資料性との双方を備えるべく、吟味して選定しています。また、適切な写真資料を提示するために、自社で現地に出向いて取材を行い、より学習効果の高い被写体やアングルを追求しています。
- 第3部第3章の各節の冒頭には、親しみやすいイラスト地図から各地方を概観する「とびら」を設けました。イラストには、これから学ぶ地方の産業や産物だけでなく、小学校の既習事項も踏まえた内容が入っているため、生徒の興味・関心を引き出す効果を期待できます。
- おもに各章・節タイトル脇に設置した二次元コードから、動画でも地域の姿を概観できるようにしています。

#### ③ 言語活動を備えた見通し・振り返り活動の充実

- 章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に、単元を貫く問いを設けており（「章の問い」「節の問い」「学習課題」）、生徒が学習の見通しを持てるようにしています。
- それらの問いの受け皿としての課題も、章・節・各本文ページの末尾に設けており（「章（節）の学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」）、言語活動を備えた学習の振り返りの場面を用意しています。

#### ④ 情報活用技能の習得コーナーの充実

- 「技能をみがく」コーナーを、23ヶ所設けています。地図帳・写真・雨温図・地形図・統計・グラフの読み取り方や、地域の調査・分析の手法など、地理学習の基礎的な技能を広く学べます。
- 本文ページ中の各種写真・統計類においては、「資料活用」の問いを設けており、習得した技能を、生徒自身が活用できるようにしています。
- 加えて、近年、防災の観点からも重要視されているハザードマップなど、高等学校の「地理総合」に関わる技能にも配慮しています。

### B) 「対話的な学び」を実現するための工夫

#### ⑤ 実社会の人々の声や取り組みを豊富に掲載

- 本文ページの導入資料には、実社会の人々の具体的な話を紹介するコラム「声」を、p.116, 249 など18ヶ所で設けています。働く人の生の声を伝えることで、生徒同士の意見交換のきっかけとなり、導入資料に対してより深く考えることができるよう配慮しています。

- コラム「未来に向けて」を p.89, 91, 97 など 25ヶ所、特設ページ「地域の在り方を考える」を 7ヶ所で設けています。これらのコラムにおいては、人々が地域に見られる課題に対して協働して取り組み、地域の発展を目指している姿を提示しています。

## C) 「深い学び」を実現するための工夫

### ⑥地理的な「見方・考え方」を働かせた、多面的・多角的な考察を行う言語活動の充実

- 巻頭 7 で「地理的な見方・考え方について」を設けています。学習指導要領が定めた、地理的分野の全体を通して鍛えていく「見方・考え方」について、分かりやすく説明しています。
- 「章（節）の学習を振り返ろう」では、上述の「見方・考え方」を働かせた、「章（節）の問い」の答えへの論理的な説明や、地域の特色に対する多面的・多角的な考察に取り組みます。特に第 2 部第 2 章（世界の諸地域）と第 3 部第 3 章（日本の諸地域）では、模式図を使って学習内容を整理する活動を通じて、考察の深まりを支援します。

### ⑦地理的な「見方・考え方」を働かせた、調査・分析・構想活動の充実

- 第 2 部第 2 章（世界の諸地域）および第 3 部第 3 章（日本の諸地域）のなかの、各節末尾の「節の学習を振り返ろう」では、右側のページの「ステップ 3」で、地域に見られる課題の解決に向けて考えを深める活動が行えます。その下段には、学んだ地域の課題と自分たちとの関わりを意識させるコーナーも設けています。
- 第 3 部第 1 章（身近な地域の調査）では、習得した地理的な「見方・考え方」を働かせて、生徒自身が住む地域に対する調査と、その結果に対する多面的・多角的な分析を深めます。第 4 部第 1 章（地域の在り方）では、第 3 部第 1 章での調査と分析に基づき、第 2 部や第 3 部での学習も踏まえ、地域に見られる課題の解決に向けた構想に取り組みます。
- これらの活動の関係は、巻頭の「地理的分野の学習の全体像を見通そう」に加えて、第 2 部第 2 章・第 3 部第 2 章・第 4 部の各冒頭でそれぞれ「序説」を設けて概観し、生徒が見通しを持てるように配慮しています。

## ▶ 総則－第 4 「生徒の発達の支援」に関わる特色

### ①すべての生徒に読みやすい表現の工夫

- 特別支援教育の専門家からの助言を参考に、すべての生徒が読み取りやすい表現となるよう配慮しています。
- 文字は、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UD フォント）を使用しました。
- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮しました。また、折れ線グラフなどは、線種を変えたりするなどの工夫を行い、色以外の情報からも読み取れるようにしました。
- 学習者用デジタル教科書を発行し、特別支援教育に活用できる機能を付加します。

### ②二次元コードの利用で、生徒の理解や自学自習を支援

- 二次元コードの利用で、教科書に掲載している資料の一部を、タブレットパソコンなどで閲覧できます。例えば、「地球儀での距離と方位の調べ方」(p.11) など、「技能をみがく」コーナーを中心に動画を収録し、すべての生徒にとっての理解しやすさを向上させています。
- 各章・節の二次元コードでは、学習内容に関連する動画を、章末特設「学習を振り返ろう」では、知識を確認する問題の解答を閲覧でき、自学自習を支援します。

### ③教科書に使う用紙の軽量化

- 持ち運びの負担軽減のため、製紙工場と研究を重ね、用紙の 1㎡あたりの重量は現行比で約 5% 軽量化しました。

## ▶ 総則－第 5 「学校運営上の留意事項」に関わる特色

### ◎地域社会と連携・協働する態度を涵養する、地域調査単元

- 第 3 部第 1 章「地域調査の手法」では、地域社会の方々の協力を得て調査を進める機会を設けており、将来の



連携・協働に向けた態度を養えます。

## ▶ 総則－第6「道徳教育に関する配慮事項」に関わる特色

### ◎全編を通じた、人々の営みや努力する姿の丁寧な描写

- 全編を通じ、取り上げる題材や写真は、人々の営みや努力する姿が伝わるよう、丁寧な描写や吟味に心がけています（p.32-33, 210, 229, 268 など）。

## ▶ 社会科の目標・地理的分野の目標に関わる特色

### A)「知識・技能の習得」における工夫

#### ①地誌単元の内容を充実させ、国土理解・異文化理解を促進

- 地誌を扱う第2部第2章（世界の諸地域）および第3部第3章（日本の諸地域）の内容を充実させています。世界の各州（6州）・日本の各地方（7地方区分）ともに、自然環境、生活・文化、産業をバランス良く扱うことで、正しい国土理解と偏見に陥らない異文化理解が行えるようにしています。もちろん、学習指導要領が求める主題を中心とした展開や、地域にみられる課題をからめた展開とも、十分に両立できるよう、内容構成の吟味を重ねました。
- なお、上記の両章の構成・展開については、両章冒頭に「序説」を設けて概観し、生徒が学習の見通しを持てるようにしています。

### B)「思考力・判断力・表現力の育成」における工夫

#### ②「地理的な見方・考え方」は、巻頭でかみくだいて解説

- 巻頭7には「地理的な見方・考え方について」を設け、かみくだいた解説を行いました。巻頭で解説することで、地理的分野の全体を通して「見方・考え方」を働かせて鍛えていく主旨にかないます。
- 具体的には、「地理的な見方・考え方」を疑問文形式で中学生にもなじみやすい言葉に言い換えました。また、「地理的な見方・考え方」を端的に表す写真をめぐりキャラクターが会話することを通して、「地理的な見方・考え方」とはどのようなことなのかをとらえやすくしました。

### C)「学びに向かう力・人間性の涵養」における工夫

#### ③環境・防災・共生を主題とした内容を積極的に掲載し、“持続可能な開発目標（SDGs）”の意義への理解を涵養

- 先述のコラム「未来に向けて」では、環境・防災・共生を主題としており、巻頭1-2の「地域のよりよい発展を目指して」と併せて、国際連合が掲げ日本政府も強く推進している“持続可能な開発目標（SDGs）”に関わる題材を積極的に扱っています。
- 最終単元である第4部第1章（地域の在り方）でも、“持続可能な社会”を目指す意義を、生徒に語りかけています。その際、先述の特設ページ「地域の在り方を考える」が“持続可能な社会”を実現する例として提示してあるため、より具体的に地域の在り方を構想することが期待できます。

## ② 対照表

図書の構成	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数	特に工夫して扱った学習指導要領の内容およびそれに該当する図書の内容
<b>第1部 世界と日本の地域構成</b>	A		<b>10</b>	
第1章 世界の姿	(1)①	2 ～ 13	5	<b>ア (ア)</b> 親しみやすいとえや、かみくだいた説明と図示に配慮しており、発達段階に応じた円滑な学習への導入が行えます。 <b>ア (ア)</b> 地図帳や地球儀を読み取り活用する作業や、略地図を描く作業を充実させており、地理的技能を着実に習得できます。なお、地球儀の活用法など、内容の性質上、紙面ではとらえにくい事項は、二次元コードを通じた動画で理解を補っています。 <b>イ</b> “位置や分布”の見方・考え方を働かせる活動を、各ページ末の「説明しよう」や章末の「章の学習を振り返ろう」で充実させています。
第2章 日本の姿	(1)②	14 ～ 25	5	<b>ア (イ)</b> 日本の領域の範囲とその特色について、p.18-21で、日本政府の国際法に則った立場を、図版等も工夫して丁寧に解説しています。
<b>第2部 世界のさまざまな地域</b>	B		<b>39</b>	
第1章 人々の生活と環境	(1)	26 ～ 46	9	<b>ア</b> 写真の多くは、自社で現地に出向いて、学習効果の高い被写体やアングルに留意して撮影しています（例えば、p.32-33で掲載している写真は、すべて自社撮影です）。写真を読み解くポイントも、p.27で解説しています。 <b>イ</b> “場所”や“人間と自然の相互依存関係”の見方・考え方を働かせる活動を、「説明しよう」や「章の学習を振り返ろう」で充実させています。
第2章 世界の諸地域	(2)	47 ～ 129	30	<b>ア</b> 各「節の問い」を構成する州ごとの主題は、熟慮のうえ設定し、人々の生活の様子と地球的課題とを、関連づけて的確に把握できるようにしました。かつ、各州のなかで扱う題材は、自然環境、歴史、生活・文化、産業をバランス良く取り上げ、地域的特色を大観するうえで、偏見に陥らない異文化理解が進むよう配慮しました。なお、こうした構成については、章の冒頭となるp.47に「序説」を設けて、見通しを持てるようにしました。 <b>イ</b> “空間的相互依存作用”や“地域”の見方・考え方を働かせる活動を、各ページ末の「説明しよう」や各節末の「節の学習を振り返ろう」で充実させることで、地域で見られる地球的課題の要因や影響と、各州の地域的特色とを、論理的に関連づける考察を、行いやすくしています。 <b>イ</b> 地球的課題は、持続可能な社会づくりを多面的・多角的に考えるうえで効果的な題材を、各州にバランス良く割り振るとともに、自分たちとの関わりを意識させる活動も、各「節の学習を振り返ろう」末尾に設けています。
<b>第3部 日本のさまざまな地域</b>	C		<b>54</b>	
第1章 身近な地域の調査	(1)	130 ～ 141	4	<b>ア</b> 野外調査や地形図に関わる技能を丁寧に解説しています。 <b>イ</b> 地理的な見方・考え方を働かせて行う活動を、地域の調査・分析の手法に組み込んでいます。
第2章 日本の地域的特色	(2)	142 ～ 169	13	<b>ア</b> ハザードマップを読み取る作業を充実させており、防災に関する地理的技能を着実に習得できます。 <b>イ</b> “分布”や“地域”の見方・考え方を働かせる活動を、各ページ末の「説明しよう」や章末の「章の学習を振り返ろう」で充実させています。
第3章 日本の諸地域	(3)	170 ～ 284	37	<b>ア</b> 各「節の問い」を構成する地方ごとの中核となる事象は、熟慮のうえ設定し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連づけて把握できるようにしました。かつ、各地方のなかで扱う題材は、自然環境、生活・文化、産業をバランス良く取り上げ、地域的特色を大観するうえで、正しい国土理解が進むよう配慮しました。なお、こうした構成については、章の冒頭となるp.170に「序説」を設けて、見通しを持てるようにしました。 <b>イ</b> “空間的相互依存作用”や“地域”の見方・考え方を働かせる活動を、「説明しよう」や「節の学習を振り返ろう」で充実させることで、地域的特色を構成する各事象と課題の相互関係を、論理的に関連づける考察を、行いやすくしています。
<b>第4部 地域の在り方</b>	C		<b>5</b>	
第1章 地域の在り方	(4)	285 ～ 295	5	<b>ア</b> “持続可能な社会”の概念について丁寧に説明しています。 <b>イ</b> 部の冒頭p.285に「序説」を設けて、世界と日本の学習を自分が住む地域の在り方に関連づけ、多面的・多角的に構想できるようにしています。

予備7  
合計  
108